

(平成22年5月7日)

課室名

新しい学校づくり推進室

件名	北杜高等学校の理数科の廃止と理数コースの設置について																																	
経緯	<p>○ 経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成9年 峡北高校に理数科を設置 ・平成13年 峡北高校、峡北農業高校、須玉商業高校を統合し北杜高校を開校 理数科の他、普通科、総合学科を併設 ・平成19年 普通科における全県一学区制導入 ・平成21年 「県立高等学校整備基本構想」の策定 <p>〔専門教育学科とコース制〕</p> <p>○ 専門教育学科 普通科を設置する高校の特色づくりとして定着している学校においては、今後も、専門性に配慮しながら、教育課程の柔軟な編成を行うこととし、継続していきます。 一方、定員割れが続き、今後も定員を満たすことが困難と予測される高校、教育課程の実施に苦慮している高校は、学科の改編や存廃について検討します。</p> <p>○ コース制 コースの名称、学習内容、募集方法など全般にわたり、各高校がその学校の実態に応じて設定でき、改廃も含め、より創意工夫が行いやすい制度になるよう改編します。</p> <p>〔「理数科」在籍数の推移(平成13年度以降)〕</p> <table border="1" data-bbox="284 1025 1246 1160"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H13</th> <th>H14</th> <th>H15</th> <th>H16</th> <th>H17</th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学者</td> <td>34</td> <td>31</td> <td>33</td> <td>30</td> <td>25</td> <td>28</td> <td>24</td> <td>21</td> <td>22</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>定員</td> <td>40</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	入学者	34	31	33	30	25	28	24	21	22	28	定員	40	35	35	30	30	30	30	30	30	30
年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22																								
入学者	34	31	33	30	25	28	24	21	22	28																								
定員	40	35	35	30	30	30	30	30	30	30																								
内容	<p>「県立高等学校整備基本構想」に基づき、理数科の募集を停止して、普通科に理数コースを設置し、学校の特色づくりを図る。</p> <p>○ 理数科の廃止</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学校の特色づくりとして一定の効果があったが、地域の中学卒業生数の減少や新入試制度の導入により、「理数科」の定員確保が困難になってきた。 2) 「理数科」生は学校の進路実績の核となってきたが、大学全入時代を背景に推薦希望者が増加してきたことから、現実にそぐわなくなっている。 3) 理数科は教育課程が固定化されており、進路変更が困難であるばかりでなく、理数科の定員の未充足が、学校のイメージダウンに繋がっている。 <p>○ 理数コースの設置</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 普通科及び総合学科は、定員を上回る希望者がいることから、普通科への「理数コース」の設置は、これまでの理数科の成果を引き継ぐだけでなく、地域の中学卒業生の進路を確保するという観点からも望ましい。 2) 普通科のコース制は、「県立高等学校整備基本構想」において、学校の実態に応じて設定できるよう柔軟に改編されている。 																																	

〈問い合わせ先：新しい学校づくり推進室 赤池（内線8306）〉